

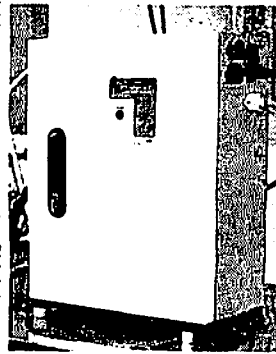
## 国内初の

### ■環境、安全、健康に配慮した殺菌水

微酸性電解水(微酸性次亜塩素酸水)とは、土井豊彦社長が発明した殺菌剤であり、微酸性電解水研究所は、その名の通り自社開発製品である微酸性電解水の生成装置＝写真＝の開発、製造、販売を行う会社である。

現在、殺菌剤としては次亜塩素酸ナトリウムが主として用いられているが、廃水処理における環境負荷が大きく、クロロホルムの発生により健康を害することから問題視され、欧州では使用されなくなってきた。

これに比べて微酸性電解水は、2002年、厚生労働省、韓国において食品添加物にも指定された安全性の高い物質で、環境負荷や殺菌効果などあらゆる面で優位性がある。殺菌剤として食品加工、農業、看護医療など、応用分野は多岐にわたり、次亜塩素酸ナトリウムに取って代わるものとして可能性がある。



現在、微酸性電解水生成装置は、国内の食品加工工場を中心に販売・導入されており、海外展開の皮切りとしては、台湾の上場会社と提携して中国や台湾の衛生管理、政府系ルートでの販売を目指す。

同時に、次亜塩素酸ナトリウムの代替物質として、新たな用途開発を実施していく。用途開発としては、地下水の殺菌、プールや温泉の殺菌、医療系用殺菌剤、農業用除菌剤、船舶バラスト水の処理、半導体製造時の洗浄などが想定されている。

土井社長は、「安全で経済的な衛生管理手段を世界に広めたい」と思いを語っている。



微酸性電解水研究所 〒252-0816、藤沢市遠藤4489の105、慶応藤沢イノベーションビル102号室。☎0466(52)5912、ファクス0466(48)4123。電子メールはtamonb

ox@bisensei.jp URLは<http://www.bisensei.jp>  
(情報提供・慶応藤沢イノベーションビル=SFC-1V)